

付属統計表
第I部

第1-1表 中途採用実施予定事業所割合の推移

第1-1表 中途採用実施予定事業所割合の推移（製造業）（単位：%）

年・期	計	離職者の補充	操業度(取扱額)の上昇	設備・部門の拡充
昭和50年 1～3月	14.00	8.40	2.38	0.84
4～6	17.00	10.37	3.57	0.51
7～9	22.00	12.54	5.94	0.88
10～12	24.00	15.12	5.04	1.20
51年 1～3月	27.00	16.20	5.94	1.35
4～6	20.00	10.80	6.20	0.80
7～9	37.00	19.24	13.32	1.85
10～12	33.00	20.13	8.58	1.32
52年 1～3月	30.00	20.40	4.50	0.90
4～6	23.00	14.95	4.37	1.15
7～9	26.00	17.68	5.46	1.04
10～12	23.00	15.64	4.60	0.46
53年 1～3月	20.00	14.20	3.40	0.60
4～6	21.00	13.65	4.41	0.84
7～9	26.00	15.86	7.28	1.04
10～12	26.00	16.90	6.24	1.04
54年 1～3月	28.00	18.76	5.32	1.12
4～6	29.00	17.69	7.54	1.16
7～9	39.00	21.84	11.70	1.95
10～12	39.00	22.62	10.92	2.34
55年 1～3月	44.00	24.64	11.44	3.08
4～6	40.00	21.60	11.20	2.00
7～9	42.00	25.20	11.34	2.52
10～12	38.00	22.80	8.74	2.66
56年 1～3月	38.00	22.80	8.74	1.52
4～6	30.00	16.20	8.10	2.10
7～9	33.00	19.14	8.91	1.65
10～12	32.00	19.20	7.68	1.92
57年 1～3月	28.00	17.08	4.48	1.68
4～6	23.00	14.26	3.45	1.15
7～9	26.00	13.78	5.46	1.82
10～12	22.00	12.10	4.18	1.54
58年 1～3月	21.00	12.18	4.62	1.05
4～6	21.00	10.71	4.83	1.68
7～9	27.00	13.50	8.64	2.43
10～12	30.00	14.40	9.00	2.40
59年 1～3月	32.00	16.64	8.96	2.56
4～6	31.00	14.25	9.30	2.48
7～9	38.00	19.00	11.02	3.80
10～12	34.00	17.68	8.16	3.40
60年 1～3月	33.00	18.15	6.93	2.64
4～6	32.00	15.36	8.32	2.56
7～9	31.00	17.98	6.20	2.48
10～12	26.00	14.56	4.94	1.82
61年 1～3月	25.00	15.60	3.64	1.04
4～6	23.00	12.88	3.22	1.84
7～9	22.00	12.98	3.30	1.54
10～12	11.00	6.93	0.66	1.65
62年 1～3月	21.00	12.81	2.10	2.94
4～6	25.00	15.75	2.25	2.50
7～9	24.00	16.80	2.64	1.92
10～12	33.00	17.49	8.25	4.29
63年 1～3月	45.00	22.08	11.50	7.82
4～6	44.00	19.36	12.32	7.48
7～9	49.00	21.56	15.68	7.35
10～12	56.00	22.96	19.60	7.84

資料出所 労働省「労働経済動向調査」

(注) 1) 中途採用ありの実績見込事業所割合である。

2) 中途採用の理由別割合を合計しても、「新規学卒がとれなかった」、「その他」の項目があるため計とは一致しない。

第1-2表 職種別労働者の過不足状況判断D.Iの推移

第1-2表 職種別労働者の過不足状況判断 D.Iの推移
(製造業)

(単位 %))

年・月	事務	管理	専門技術	販売	技能工	単純工
昭和41年8月	-7		27	15	36	40
42年8月	6		34	18	55	61
43年2月	9		43	31	64	62
8	1		37	26	61	58
44年2月	4		48	33	65	62
8	8		47	34	69	68
45年8月	8		46	29	66	60
46年2月	8		46	31	58	43
8	-5		34	28	44	31
47年2月	-1		30	26	30	15
8	1		27	25	40	32
48年2月	20		39	33	61	55
8	19		36	34	64	60
52年11月	-11		-1	10	3	-11
53年2月	-10		-1	11	1	-13
5	-10		0	9	3	-8
8	-7		2	8	6	0
11	-7		3	9	9	-1
54年2月	-4		5	12	8	-1
5	-5		6	11	14	6
8	0		14	15	22	15
11	1		17	14	27	19
55年2月	2		18	18	29	18
58年2月	-7		21	15	5	-10
5	-11		19	14	4	11
8	-6		19	12	11	-2
11	-5		23	13	14	4
59年2月	-5		25	15	17	5
5	-4		23	13	14	3
8	-6	-3	35	19	22	10
60年5月	-3	0	30	15	16	2
61年11月	-13	-10	21	10	-7	-17
62年2月	-12	-13	23	12	-6	-16
5	-12	-9	23	9	6	13
8	-12	-8	24	11	1	-10
11	-8	-4	26	13	13	8
63年2月	-2	-3	35	23	25	21
5	-2	1	33	19	26	21
8	2	0	36	20	35	32
11	3	3	36	23	40	40
平成元年2月	7	8	40	24	45	41

(卸売・小売業、飲食店)

(単位 %)

年・月	事務	管理	専門技術	販売	技能工	単純工
昭和41年 8月	6		14	32	12	10
42年 8月	7		18	54	15	11
43年 2月	29		41	68	52	43
8	15		36	53	33	35
44年 2月	22		32	65	56	49
8	34		43	68	49	52
45年 8月	20		55	61	47	38
46年 2月	20		42	48	51	43
8	3		34	47	36	36
47年 2月	11		28	46	34	25
8	6		32	46	41	31
48年 2月	25		41	62	55	43
8	21		41	54	59	48
52年 11月	5		2	28	15	- 3
53年 2月	- 2		0	23	13	- 11
5	- 6		0	17	11	- 4
8	- 7		0	25	17	- 1
11	0		4	27	24	5
54年 2月	4		7	34	25	5
5	- 3		8	26	23	0
8	4		8	38	24	15
11	6		11	39	25	13
55年 2月	9		14	45	26	8
58年 2月	- 2		10	22	6	- 11
5	- 5		5	15	11	- 6
8	- 5		4	19	6	- 10
11	- 7		7	26	12	- 5
59年 2月	- 2		7	26	9	- 6
5	- 8		10	20	6	4
8	- 7	- 3	23	25	17	1
60年 5月	- 4	- 3	16	23	18	- 1
61年 11月	- 6	- 5	16	17	5	2
62年 2月	- 2	- 10	14	16	11	7
5	- 4	- 8	10	14	9	- 4
8	- 4	- 4	17	20	6	5
11	- 1	- 4	18	26	17	8
63年 2月	9	2	24	41	20	24
5	7	3	20	38	23	13
8	12	7	29	42	19	27
11	16	9	27	45	30	29
平成元年 2月	25	11	31	53	30	22

資料出所 労働省「労働経済動向調査」

(注) D.I.とは、「不足」-「過剰」事業所割合

第1-3表 有効求人倍率の求人・求職別増減寄与度

第1-3表 有効求人倍率の求人・求職別増減寄与度（対前年差）

（単位 ポイント）

年	有効求人寄与	有効求職寄与	有効求人倍率前年差
昭和41年	0.081	0.021	0.10
42	0.229	0.045	0.26
43	0.082	0.040	0.12
44	0.141	0.045	0.18
45	0.097	0.018	0.11
46	- 0.163	- 0.103	- 0.29
47	0.073	- 0.040	0.03
48	0.502	0.170	0.61
49	- 0.454	- 0.074	- 0.56
50	- 0.314	- 0.140	- 0.59
51	0.003	0.021	0.03
52	- 0.068	- 0.011	- 0.08
53	0.025	- 0.020	0.00
54	0.123	0.031	0.15
55	0.038	0.000	0.04
56	- 0.012	- 0.054	- 0.07
57	- 0.030	- 0.033	- 0.07
58	0.007	- 0.020	- 0.01
59	0.054	- 0.002	0.05
60	- 0.002	0.036	0.03
61	- 0.043	- 0.012	- 0.06
62	0.065	0.009	0.08
63	0.225	0.130	0.31

資料出所 労働省「職業安定業務統計」

（注）要因分解は以下による。

$$\text{有効求人倍率} = \frac{O}{A} \text{より}$$

$$\Delta \frac{O}{A} = \underbrace{\frac{\Delta O}{A}}_{\text{求人寄与}} + \underbrace{\frac{\Delta A}{A^2} O}_{\text{求職寄与}}$$

ただし、O：有効求人件数

A：有効求職者数

第1-4表 就職件数等の推移

第1-4表 就職件数等の推移（季節調整値）

（単位 件、％）

年・期	就職件数	就職率	充足率	年・期	就職件数	就職率	充足率
昭和40年 1～3月	154,134	12.2	16.9	54年 1～3月	118,425	7.7	12.0
4～6	149,263	12.0	18.3	4～6	115,251	7.6	11.0
7～9	141,201	11.3	19.5	7～9	116,525	7.8	10.6
10～12	145,195	11.7	20.7	10～12	117,465	8.0	10.3
41年 1～3月	146,571	11.9	19.3	55年 1～3月	116,616	7.8	10.2
4～6	151,216	12.4	17.5	4～6	116,820	7.9	10.3
7～9	149,125	12.4	15.9	7～9	118,869	7.9	10.5
10～12	151,264	12.6	14.9	10～12	124,874	8.1	11.4
42年 1～3月	151,633	12.7	14.3	58年 1～3月	113,673	6.4	10.9
4～6	150,656	12.9	13.4	4～6	116,992	6.5	11.2
7～9	152,041	13.3	12.5	7～9	119,986	6.7	11.2
10～12	151,769	13.4	12.3	10～12	120,391	6.7	10.8
43年 1～3月	150,823	13.4	12.2	59年 1～3月	123,111	6.9	10.8
4～6	152,123	13.5	12.4	4～6	126,306	7.0	10.9
7～9	154,943	13.8	12.3	7～9	127,082	7.0	10.8
10～12	156,964	14.2	12.3	10～12	130,153	7.3	11.0
44年 1～3月	153,658	14.0	11.8	60年 1～3月	128,493	7.4	11.0
4～6	155,272	14.3	11.3	4～6	130,742	7.7	11.1
7～9	155,691	14.4	10.8	7～9	132,087	7.8	11.4
10～12	158,964	14.9	10.5	10～12	129,770	7.6	11.4
45年 1～3月	159,651	15.1	10.4	61年 1～3月	130,150	7.5	11.6
4～6	158,233	14.9	10.4	4～6	129,058	7.4	11.9
7～9	157,555	14.7	10.5	7～9	126,910	7.3	12.0
10～12	158,657	14.5	10.9	10～12	123,998	7.1	11.6
52年 1～3月	123,776	8.3	13.7	62年 1～3月	126,725	7.2	11.7
4～6	119,961	8.0	14.3	4～6	131,351	7.5	11.5
7～9	115,419	7.6	14.2	7～9	134,238	7.8	10.9
10～12	116,188	7.5	14.2	10～12	136,178	8.2	10.2
53年 1～3月	115,187	7.4	13.9	63年 1～3月	136,534	8.6	9.7
4～6	114,783	7.2	13.2	4～6	133,830	8.7	8.8
7～9	115,173	7.3	12.6	7～9	135,768	9.1	8.4
10～12	114,674	7.4	12.3	10～12	133,710	9.1	8.2

資料出所 労働省「職業安定業務統計」

(注) 1) 新規学卒を除く。

2) 3ヵ月平均値。

第1-5表平成元年新規学卒者の採用内定状況

第1-5表 平成元年新規学卒者の採用内定状況

（単位 ％）

学歴・産業	計	採用計画有り	採用計画(最終)に対する採用内定者の割合							採用計画無し
			採用内定有り					定採用無し内		
			小計	100%以上	75～100%未満	50～75%未満	1～50%未満			
高校卒										
製造業	(100)	[81]	100	90	43	27	8	12	10	(19)
卸売・小売業、飲食店	(100)	[68]	100	93	48	29	7	7	7	(32)
サービス業	(100)	[55]	100	85	39	24	8	15	15	(45)
短大・高専卒										
製造業	(100)	[58]	100	86	56	22	4	3	14	(42)
卸売・小売業、飲食店	(100)	[63]	100	89	51	29	5	4	11	(37)
サービス業	(100)	[55]	100	84	39	31	4	9	16	(45)
大学卒事務系										
製造業	(100)	[45]	100	84	42	27	8	7	16	(55)
卸売・小売業、飲食店	(100)	[66]	100	86	35	33	8	8	14	(34)
サービス業	(100)	[45]	100	78	34	24	9	12	22	(55)
大学卒技術系										
製造業	(100)	[55]	100	82	33	29	10	9	18	(45)
卸売・小売業、飲食店	(100)	[38]	100	79	32	30	9	9	21	(61)
サービス業	(100)	[44]	100	80	21	31	10	18	20	(56)

資料出所 労働省「労働経済動向調査」（平成元年2月）

第1-6表 求職理由別完全失業者の内訳

第1-6表 求職理由別完全失業者の内訳（対前年同期差）
（単位 万人）

年 期	男 子				女 子			
	非自発的離職	自発的離職	学卒未就職	その他	非自発的離職	自発的離職	学卒未就職	その他
昭和61年10～12月	3	0	0	-1	0	-1	0	-2
62年1～3月	12	-4	2	-1	3	4	0	2
4～6	8	4	0	-2	3	3	0	-3
7～9	2	0	0	1	-1	-2	0	-3
10～12	-1	-3	-1	3	-1	1	-1	1
63年1～3月	-12	5	-1	1	-5	-1	0	-2
4～6	-14	-6	-1	1	-5	-3	0	-3
7～9	10	1	0	0	-2	1	0	2
10～12	-8	-2	1	-5	-2	1	1	-1

資料出所 総務庁統計局「労働力調査」

第1-7表 前職の産業別完全失業者

第1-7表 前職の産業別完全失業者（各年2月）
（単位 万人）

項 目	昭和61年	62	63
完全失業者計	164	186	173
前職なし	13	11	13
3年前以前離職	29	35	32
1～3年前離職	37	35	40
建設業	6	4	3
製造業	8	10	10
卸売・小売業、飲食店	10	9	10
サービス業	7	6	9
その他の非農林業	6	5	7
1年前以内離職	83	103	86
農林業	1	1	1
建設業	13	13	10
製造業	24	28	23
卸売・小売業、飲食店	21	26	22
サービス業	14	22	17
その他	11	12	13

資料出所 総務庁統計局「労働力調査特別調査」

第1-8表 求人、求職の地域別構成

第1-8表 求人、求職の地域別構成

(単位: %)

年		全国	北海道	東北	南関東	北関東 ・甲信	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州
有効求人	昭和42年	100.0	11.9	4.7	24.5	7.2	4.6	16.6	17.5	6.6	2.2	4.3
	47	100.0	8.5	4.9	25.6	7.1	4.7	16.2	17.4	7.8	2.6	5.3
	54	100.0	7.3	6.6	24.7	8.8	5.5	15.0	13.3	7.6	3.3	8.0
	59	100.0	7.2	6.1	23.6	10.9	6.2	14.7	12.9	7.3	3.5	7.6
	63	100.0	5.2	8.1	23.3	9.6	6.4	13.9	12.9	7.5	3.8	9.4
有効求職	昭和42年	100.0	13.4	13.5	18.1	4.3	5.2	5.9	14.1	6.4	4.4	14.6
	47	100.0	14.4	15.0	16.0	4.7	4.8	5.9	13.4	6.5	4.3	15.0
	54	100.0	11.3	10.0	19.2	5.5	4.6	8.2	15.4	7.4	4.3	14.1
	59	100.0	10.4	9.7	19.9	5.5	4.9	8.6	14.8	6.9	4.3	14.8
	63	100.0	10.0	9.7	19.0	5.6	4.9	8.6	16.1	7.1	4.0	15.1

資料出所 労働省「職業安定業務統計」

(注) 1) 学卒を除きパートタイム労働者を含む。ただし、昭和47年は学卒およびパートタイム労働者を除く。

2) 地域区分は以下のとおり。ただし、昭和42年は九州に沖縄を含まない。

北海道…北海道

東北…青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島

南関東…埼玉、千葉、東京、神奈川

北関東・甲信…茨城、栃木、群馬、山梨、長野

北陸…新潟、富山、石川、福井

東海…岐阜、静岡、愛知、三重

近畿…滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

中国…鳥取、島根、岡山、広島、山口

四国…徳島、香川、愛媛、高知

九州…福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

第1-9表 地域別就職率と有効求人倍率

第1-9表 地域別就職率と有効求人倍率

(単位: %, 倍)

年		北海道	東北	南関東	北関東 ・甲信	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州
就職率	昭和42年	16.5	13.7	11.6	18.8	18.1	15.4	11.4	14.9	10.5	7.8
	47	13.2	12.7	12.8	17.0	17.1	16.3	11.7	13.4	11.2	8.9
	54	13.9	9.7	5.2	11.1	13.1	7.2	5.4	7.4	7.4	6.5
	63	14.7	11.0	4.9	10.5	13.6	6.9	5.7	8.6	7.9	8.0
有効求人倍率	昭和42年	0.88	0.35	1.35	1.65	0.87	2.79	1.24	1.03	0.49	0.29
	47	0.67	0.37	1.84	1.74	1.10	3.18	1.49	1.38	0.69	0.40
	54	0.46	0.46	0.91	1.12	0.84	1.30	0.62	0.73	0.74	0.40
	63	0.53	0.84	1.24	1.73	1.32	1.63	0.81	1.07	0.96	0.63

資料出所 労働省「職業安定業務統計」

(注) 1) 就職率は、学卒およびパートタイム労働者を除く。ただし、昭和42年は、学卒を除きパートタイム労働者を含む。

2) 有効求人倍率は、学卒を除きパートタイム労働者を含む。ただし、47年は学卒およびパートタイム労働者を除く。

3) 地域区分は第1-8表に同じ。ただし、42年は九州に沖縄県を含まない。

第1-10表 当該地域の就職者のうち他地域からの者の割合、他地域への者の割合

第1-10表 当該地域の就職者のうち他地域からの者の割合、他地域への者の割合
(単位 %)

年(度)		北海道	東北	南関東	北関東 甲信	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州
他地域からの者	昭和42年	10.6	0.3	22.7	6.5	3.7	25.5	13.9	4.1	0.9	0.2
	47年	4.4	0.1	25.8	5.7	3.5	24.0	13.5	7.3	0.6	0.1
	54年度	1.7	0.2	23.0	5.2	1.9	18.7	8.6	1.4	0.7	0.1
	59年度	0.7	0.2	22.7	8.2	0.8	17.4	7.4	1.4	0.5	0.1
	62年度	0.5	0.1	22.4	5.6	0.8	15.1	5.1	1.2	0.6	0.1
他地域への者	昭和42年	4.8	41.0	0.2	5.9	24.1	1.1	1.2	7.7	14.4	21.8
	47年	6.8	39.3	0.2	2.5	20.3	0.5	0.6	3.0	10.5	23.3
	54年度	3.3	29.9	0.2	0.8	15.9	0.4	0.7	1.5	4.9	12.3
	59年度	3.9	28.7	0.3	0.8	10.7	0.3	0.5	1.4	4.1	11.4
	62年度	3.8	23.5	0.3	1.0	7.8	0.2	0.5	0.9	2.9	9.2

資料出所 労働省「職業安定業務統計」

- (注) 1) 昭和42年、47年は学卒を除きパートタイム労働者を含む。
2) 54年度、59年度、62年度は学卒およびパートタイム労働者を除く。
3) 地域区分は第1-8表に同じ。ただし、42年は九州に沖縄県を含まない。

第1-11表 職業別新規就職率と新規求人倍率

第1-11表 職業別新規就職率と新規求人倍率

(単位 %、倍)

年		専門的技術的職業	管理的職業	事務的職業	販売の職業	サービスの職業	保安の職業	農林漁業の職業	運輸・通信の職業	技能工、採掘・製造・建設、事務の職業
就職率	昭和47年	32.4	—	33.8	38.0	42.2	27.5	—	43.3	41.5
	54	20.3	—	20.0	23.6	33.5	35.0	—	32.8	31.9
	63	26.2	28.7	20.5	27.1	34.2	46.7	46.7	37.7	41.2
新規求人倍率	昭和47年	1.75	—	1.09	2.30	3.35	1.29	—	1.57	2.38
	54	1.01	—	0.59	2.29	2.52	1.55	—	1.45	1.74
	63	2.08	1.00	0.58	2.24	2.03	3.29	2.38	2.01	2.30

資料出所 労働省「職業安定業務統計」

- (注) 1) 学卒およびパートタイム労働者を除く常用。
2) 新規就職率は就職件数/新規求職者数により求めた。

第1-12表 産業別の現金給与総額伸び率の給与項目別寄与度

第1-12表 産業別の現金給与総額伸び率の給与項目別寄与度

(単位 %))

産業・給与項目		対前年比			現金給与総額(対前年比)寄与度		
		昭和61年	62	63	昭和61年	62	63
鉱業	現金給与総額	-0.9	1.2	1.9	1.42	0.75	0.88
	所定内給与				-0.42	-1.14	1.89
	所定外給与 特別給与				-1.90	1.60	-0.88
建設業	現金給与総額	4.3	2.7	5.3	2.92	1.75	2.86
	所定内給与				0.58	0.08	-0.04
	所定外給与 特別給与				0.80	0.85	2.50
製造業	現金給与総額	1.5	1.7	4.5	1.97	1.23	1.65
	所定内給与				-0.54	0.25	1.56
	所定外給与 特別給与				0.07	0.19	1.25
電気・ガス・ 熱供給・水道 業	現金給与総額	5.2	2.2	3.6	2.78	1.66	1.80
	所定内給与				0.77	0.41	0.22
	所定外給与 特別給与				1.65	0.12	1.61
運輸・通信業	現金給与総額	2.1	3.7	5.2	1.33	1.57	3.90
	所定内給与				0.34	0.67	0.62
	所定外給与 特別給与				0.43	1.49	0.67
卸売・小売業、 飲食店	現金給与総額	2.7	1.5	3.1	2.06	0.97	2.04
	所定内給与				0.04	-0.02	0.69
	所定外給与 特別給与				0.60	0.51	0.33
金融・保険業	現金給与総額	5.1	2.8	3.6	3.00	1.58	1.77
	所定内給与				0.13	0.17	0.30
	所定外給与 特別給与				1.98	1.02	1.54
不動産業	現金給与総額	5.7	3.2	3.6	3.03	2.87	2.27
	所定内給与				0.22	0.14	-0.18
	所定外給与 特別給与				2.45	0.22	1.48
サービス業	現金給与総額	3.7	1.1	2.4	2.54	1.39	1.58
	所定内給与				0.31	0.23	0.17
	所定外給与 特別給与				0.84	0.56	0.64

資料出所 労働省「毎月勤労統計調査」

第1-13表 62年,63年の産業別賃上げ率

第1-13表 62年、63年の産業別
賃上げ率

(単位: %)

産 業	昭和62年	63年
産 業 計	3.6	4.4
鉱 業	2.1	2.7
建 設 業	4.1	4.6
製 造 業	3.3	4.2
電気・ガス・熱 供給・水道業	4.0	4.7
運輸・通信業	3.4	3.7
卸売・小売業、 飲 食 店	4.0	5.1
金融・保険業	4.7	4.8
不 動 産 業	3.9	4.7
サ ー ビ ス 業	4.0	5.2

資料出所 労働省「賃金引上げ等の実態に関する調査」

第1-14表 規模別週所定内労働時間の割合

第1-14表 規模別週所定内労働時間の割合

(単位: %)

企業規模	40時間以内	40～46時間以内	46～48時間未満	48時間
計	48.6	34.4	1.7	15.3
1,000人以上	76.3	20.5	1.0	2.2
100～999人	34.7	47.5	1.6	16.2
30～99	13.5	41.5	3.6	41.4

資料出所 労働省「賃金労働時間制度等総合調査」(昭和62年)

第1-15表 労働生産性と労働時間の動向

第1-15表 労働生産性と労働時間の動向 (単位 %、ポイント)

年	労働生産性 上昇率	寄 与 度			
		実質賃金	労働分配率	消費財 相対価格	総 実 労働時間
昭和40年～50年	6.8	7.4	-2.5	0.7	1.2
50～55	2.8	1.3	0.3	1.5	-0.4
55～60	2.4	1.0	0.3	1.0	0.1
60～63	2.3	2.6	0.3	-0.4	-0.1

資料出所 労働省「毎月勤労統計調査」、総務庁統計局「労働力調査」、経済企画庁「国民経済計算」より労働省労働経済課試算。

(注) 各要素への分解は、次の考え方による。

$$\text{実質労働投入生産性 } q = \frac{y}{L \cdot H} = \frac{P_2 y}{P_1 w L} \cdot \frac{P_1 w}{P_2 H} = \frac{p \cdot w}{a \cdot H}$$

$$\text{よって両辺の変化率をとると } \dot{q} = \dot{w} - \dot{a} + \dot{p} - \dot{H}$$

\downarrow 実質賃金 \downarrow 労働分配率 \downarrow 相対価格 \downarrow 労働時間

ただし Y：実質国民所得 L：雇員数 H：総実労働時間指数
 P₁：消費者物価 P₂：GNPデフレーター W：実質賃金

a：労働分配率 $\left[\frac{P_1 w L}{P_2 y} \right]$ P - $\frac{P_1}{P_2}$ ：消費財の相対価格

第1-16表 規模別労働生産性の推移

第1-16表 規模別労働生産性の推移
(製造業、1,000人以上規模=100)

年	100～999人規模	30～99人規模
昭和45年	70.9	47.3
50	78.5	49.3
55	76.1	45.0
60	68.5	41.6
62	65.5	40.5

資料出所 通商産業省「工業統計表」

(注) 1) ここでは、労働生産性 = $\frac{\text{生産額}}{\text{従業員数}}$ 。
 2) 規模区分は、事業所ベースによる。

第1-17表 産業大分類別労働時間の状況

第1-17表 産業大分類別労働時間の状況(長い順に並べたもの、男子)

(単位 時間)

昭和39年	47	54	62
〔総実労働時間〕			
調査産業計 213	調査産業計 205	調査産業計 200	調査産業計 198
①建設業 218	①建設業 218	①鉱業 209	①鉱業 209
②鉱業 218	②鉱業 215	②建設業 207	②運輸通信業 208
③製造業 217	③運輸通信業 207	③卸売・小売業、 飲食店 201	③建設業 205
④運輸通信業 214	④製造業 204	④運輸通信業 200	④製造業 198
⑤卸売・小売業、 飲食店 205	⑤卸売・小売業、 飲食店 203	⑤製造業 200	⑤卸売・小売業、 飲食店 197
⑥不動産業 202	⑥不動産業 194	⑥サービス業 199	⑥サービス業 196
⑦サービス業 199	⑦電気・ガス・熱 供給、水道業 184	⑦不動産業 192	⑦不動産業 192
⑧金融保険業 184	⑧金融保険業 181	⑧金融保険業 180	⑧電気・ガス・熱 供給、水道業 175
⑨電気・ガス・熱 供給、水道業 182		⑨電気・ガス・熱 供給、水道業 179	⑨金融保険業 174
〔所定内労働時間〕			
	調査産業計 185	調査産業計 183	調査産業計 180
	①建設業 197	①建設業 192	①建設業 190
	②卸売・小売業、 飲食店 192	②卸売・小売業、 飲食店 190	②鉱業 188
	③鉱業 187	③鉱業 185	③卸売・小売業、 飲食店 186
	④不動産業 184	④サービス業 185	④運輸通信業 182
	⑤運輸通信業 184	⑤不動産業 181	⑤サービス業 181
	⑥製造業 183	⑥製造業 180	⑥不動産業 180
	⑦電気・ガス・熱 供給、水道業 170	⑦運輸通信業 179	⑦製造業 177
	⑧金融保険業 168	⑧金融保険業 166	⑧金融保険業 161
		⑨電気・ガス・熱 供給、水道業 165	⑨電気・ガス・熱 供給、水道業 159
〔所定外労働時間〕			
	調査産業計 20	調査産業計 17	調査産業計 18
	①鉱業 28	①鉱業 24	①運輸通信業 26
	②運輸通信業 23	②運輸通信業 21	②製造業 21
	③製造業 21	③製造業 20	③鉱業 21
	④建設業 21	④建設業 15	④電気・ガス・熱 供給、水道業 16
	⑤電気・ガス・熱 供給、水道業 14	⑤サービス業 14	⑤サービス業 15
	⑥金融保険業 13	⑥金融保険業 14	⑥建設業 15
	⑦卸売・小売業、 飲食店 11	⑦電気・ガス・熱 供給、水道業 14	⑦金融保険業 13
	⑧不動産業 10	⑧卸売・小売業、 飲食店 11	⑧不動産業 12
		⑨不動産業 11	⑨卸売・小売業、 飲食店 11

資料出所 労働省「賃金構造基本統計調査」

- (注) 1) 各年6月の実際の労働時間を調査したものである。
 2) 昭和39年の調査産業計には、サービス業は含まれていない。
 3) 昭和39年の調査では、所定内・外別は調査されていない。
 4) 昭和47年の調査では、サービス業は調査されていない。

第1-18表 製造業中分類別労働時間の状況

第1-18表 製造業中分類別労働時間の状況(長い方から10産業、男子)

(単位 時間)

昭和39年	47	54	62
〔総実労働時間〕			
①出版・印刷・同 関連産業 227	①金属製品 216	①木材・木製品 209	①木材・木製品 212
②金属製品 226	②繊維工業(衣服 等を除く) 214	②家具・装備品 209	②家具・装備品 209
③家具・装備品 223	③木材・木製品 213	③金属製品 208	③金属製品 208
④一般機械器具 222	④家具・装備品 212	④繊維工業(衣服 等を除く) 208	④繊維工業(衣服 等を除く) 207
⑤食料品・たばこ 221	⑤出版・印刷・同 関連産業 211	⑤出版・印刷・同 関連産業 205	⑤プラスチック製 品、武器その他 205
⑥プラスチック製 品、武器その他 220	⑥プラスチック製 品、武器その他 210	⑥プラスチック製 品、武器その他 205	⑥食料品・たばこ 関連産業 203
⑦繊維工業(衣服 等を除く) 219	⑦食料品・たばこ 208	⑦食料品・たばこ 205	⑦出版・印刷・同 関連産業 203
⑧窯業・土石製品 218	⑧窯業・土石製品 207	⑧なめし革・同製 品・毛皮 203	⑧衣服・その他の 繊維製品 203
⑨パルプ、紙、紙 加工品 217	⑨一般機械器具 205	⑨一般機械器具 203	⑨なめし革・同製 品・手皮 201
⑩輸送用機械器具 216	⑩衣服・その他の 繊維製品 205	⑩衣服・その他の 繊維製品 202	⑩窯業・土石製品 201
〔所定内労働時間〕			
	①衣服・その他の 繊維製品 197	①家具・装備品 195	①木材・木製品 196
	②繊維工業(衣服 等を除く) 196	②木材・木製品 195	②衣服・その他の 繊維製品 193
	③家具・装備品 195	③なめし革・同製 品・毛皮 193	③家具・装備品 192
	④木材・木製品 194	④衣服・その他の 繊維製品 193	④なめし革・同製 品・毛皮 191
	⑤なめし革・同製 品・毛皮 192	⑤繊維工業(衣服 等を除く) 190	⑤繊維工業(衣服 等を除く) 188
	⑥プラスチック製 品、武器その他 190	⑥食料品・たばこ 188	⑥食料品・たばこ 187
	⑦金属製品 189	⑦プラスチック製 品、武器その他 186	⑦金属製品 185
	⑧食料品・たばこ 189	⑧金属製品 186	⑧窯業・土石製品 183
	⑨出版・印刷・同 関連産業 185	⑨窯業・土石製品 183	⑨プラスチック製 品、武器その他 183
	⑩窯業・土石製品 185	⑩一般機械器具 182	⑩出版・印刷・同 関連産業 180
〔所定外労働時間〕			
	①金属製品 27	①輸送用機械器具 27	①非鉄金属 26
	②非鉄金属 27	②出版・印刷・同 関連産業 23	②電気機械器具 25
	③輸送用機械器具 27	③非鉄金属 23	③輸送用機械器具 25
	④出版・印刷・同 関連産業 26	④電気機械器具 23	④金属製品 23
	⑤窯業・土石製品 22	⑤金属製品 22	⑤出版・印刷・同 関連産業 23
	⑥一般機械器具 21	⑥一般機械器具 21	⑥プラスチック製 品、武器その他 22
	⑦パルプ、紙、紙 加工品 20	⑦プラスチック製 品、武器その他 19	⑦一般機械器具 22
	⑧鉄鋼 20	⑧繊維工業(衣服 等を除く) 18	⑧パルプ、紙、紙 加工品 21
	⑨プラスチック製品 品、武器その他 20	⑨ゴム製品 18	⑨ゴム製品 20
	⑩電気機械器具 19	⑩窯業・土石製品 18	⑩繊維工業(衣服 等を除く) 19

資料出所 労働省「賃金構造基本統計調査」

- (注) 1) 各年6月の実際の労働時間を調査したものである。
2) 昭和39年の調査では、所定内・外別は調査されていない。

第1-19表 非製造業中分類別労働時間の状況

第1-19表 非製造業中分類別労働時間の状況(長い方から10産業、男子)

(単位 時間)

昭和39年	47	54	62
〔総実労働時間〕			
①道路貨物運送業 245	①道路貨物運送業 232	①道路貨物運送業 229	①道路貨物運送業 232
②旅館、その他の宿泊所 240	②道路旅客運送業 220	②飲食店 218	②道路旅客運送業 222
③道路旅客運送業 235		③旅館、その他の宿泊所 216	③娯楽業 214
④織物・衣服・身の回り品小売業 233		④道路旅客運送業 215	④飲食店 214
⑤娯楽業 232		⑤飲食料品小売業 215	⑤家具・建具・じゅう器小売業 213
⑥飲食店 230		⑥家具・建具・じゅう器小売業 212	⑥飲食料品小売業 213
⑦飲食料品小売業 225		⑦娯楽業 211	⑦旅館、その他の宿泊所 209
⑧家具・建具・じゅう器小売業 223		⑧織物・衣服・身の回り品小売業 209	⑧織物・衣服・身の回り品小売業 203
⑨各種商品小売業 210		⑨自動車・自転車小売業 197	⑨自動車・自転車小売業 194
⑩医療業 200		⑩各種商品小売業 195	⑩各種商品小売業 194
〔所定内労働時間〕			
	①道路貨物運送業 193	①飲食店 229	①飲食店 203
	②道路旅客運送業 189	②旅館、その他の宿泊所 216	②娯楽業 201
		③娯楽業 216	③家具・建具・じゅう器小売業 199
		④飲食料品小売業 215	④飲食料品小売業 198
		⑤家具・建具・じゅう器小売業 212	⑤旅館、その他の宿泊所 197
		⑥織物・衣服・身の回り品小売業 209	⑥道路貨物運送業 194
		⑦道路貨物運送業 193	⑦織物・衣服・身の回り品小売業 193
		⑧道路旅客運送業 189	⑧道路旅客運送業 192
		⑨自動車・自転車小売業 197	⑨自動車・自転車小売業 182
		⑩各種商品小売業 195	⑩各種商品小売業 182
〔所定外労働時間〕			
	①道路貨物運送業 39	①道路貨物運送業 37	①道路貨物運送業 38
	②道路旅客運送業 31	②道路旅客運送業 27	②道路旅客運送業 30
		③銀行・信託業 20	③情報サービス・調査・広告業 23
		④飲食料品小売業 16	④銀行・信託業 16
		⑤中小企業・庶民・住宅等特定目的金融業 13	⑤飲食料品小売業 15
		⑥家具・建具・じゅう器小売業 13	⑥家具・建具・じゅう器小売業 14
		⑦各種商品小売業 13	⑦中小企業・庶民・住宅等特定目的金融業 13
		⑧教育 13	⑧医療業 13
		⑨娯楽業 12	⑨娯楽業 13
		⑩飲食店 12	⑩通信業 12

資料出所 労働省「賃金構造基本統計調査」

- (注) 1) 各年6月の実際の労働時間を調査したものである。
 2) 昭和39年の調査では、所定内・外別は調査されていない。
 3) 各年の調査対象産業のうち、62年調査と共通または類似の産業のみを示した。

第1-20表 女子労働者所定外労働時間の状況

第1-20表 女子労働者所定外労働時間の状況(長い方から10産業)

(単位 時間)

昭和47年	54	62	
〔製造業中分類〕			
①輸送用機械器具	9	①輸送用機械器具	10
②金属製品	8	②電気機械器具	8
③出版・印刷・同 関連産業	8	③非鉄金属	8
④非鉄金属	8	④金属製品	7
⑤鉄鋼	7	⑤出版・印刷・同 関連産業	7
⑥窯業・土石製品	6	⑥家具・装備品	7
⑦パルプ、紙、紙 加工品	6	⑦ゴム製品	6
⑧ゴム製品	6	⑧一般機械器具	6
⑨電気機械器具	6	⑨プラスチック製品、 武器その他	6
⑩食料品、たばこ	6	⑩精密機械器具	6
〔非製造業中分類〕			
①道路旅客運送業	16	①道路旅客運送業	15
②道路貨物運送業	6	②銀行・信託業	13
		③中小企業・庶民・ 住宅等特定目的 金融業	10
		④医療業	8
		⑤旅館、その他の 宿泊所	7
		⑥自動車・自転車 小売業	7
		⑦家具・建具・じゅう 器小売業	6
		⑧飲食料品小売業	6
		⑨娯楽業	6
		⑩各種商品小売業	6
		①出版・印刷・同 連産業	12
		②非鉄金属	11
		③電気機械器具	10
		④輸送用機械器具	10
		⑤金属製品	9
		⑥プラスチック製品、 武器その他	9
		⑦家具・装備品	9
		⑧食料品、たばこ	8
		⑨一般機械器具	8
		⑩精密機械器具	8
		②情報サービス・ 調査・広告業	13
		③銀行・信託業	12
		④中小企業・庶民・ 住宅等特定目的 金融業	10
		⑤医療業	9
		⑥通信業	8
		⑦道路貨物運送業	8
		⑧自動車・自転車 小売業	8
		⑨飲食料品小売業	7
		⑩飲食店	7

資料出所 労働省「賃金構造基本統計調査」

(注) 1) 各年6月の実際の労働時間を調査したものである。

2) 各年の調査対象産業のうち、62年調査と共通または類似の産業のみを示した。

第1-21表 職種別実労働時間の状況

第1-21表 職種別実労働時間の状況(長いものから順に10職種、昭和62年、男子)

(単位 時間)

総実労働時間	所定内労働時間	所定外労働時間	
①営業用大型貨物自動車運転者	240	①理容師	210
②営業用普通小型貨物自動車運転者	235	②娯楽接客員	205
③営業用バス運転者	227	③調理士見習	204
④プロセス製版工	227	④洗たく工	201
⑤警備員	226	⑤警備員	201
⑥横編みメリヤス工	225	⑥調理士	200
⑦タクシー運転者	225	⑦洋服工	199
⑧パン洋生菓子製造工	223	⑧建具工	199
⑨オフセット印刷工	222	⑨ミシン縫製工	198
⑩洗たく工	221	⑩製材工	198
		⑪家具工	198
		⑫タクシー運転者	198
		⑬営業用普通小型貨物 自動車運転者	198
		①営業用バス運転者	52
		②営業用大型貨物自動車 運転者	45
		③営業用普通小型貨物 自動車運転者	37
		④プロセス製版工	37
		⑤オフセット印刷工	35
		⑥システムエンジニア	33
		⑦写真凸版製版工	32
		⑧機械製図工	32
		⑨プログラマー	30
		⑩パン洋生菓子製造工	30
		⑪合成樹脂製品成形工	30

資料出所 労働省「賃金構造基本統計調査」

(注) 6月分の実際の労働時間を調査したものである。

第1-22表 職種別実労働時間の状況

第1-22表 職種別実労働時間の状況(長いものから順に10職種、昭和62年、女子)

(単位 時間)

総実労働時間		所定内労働時間		所定外労働時間	
①美容師見習	208	①美容師見習	208	①観光バスガイド	25
②美容師	207	②美容師	207	②プログラマー	17
③横編メリヤス工	207	③理容師	204	③横編メリヤス工	12
④観光バスガイド	206	④娯楽接客員	201	④通信機器組立工	11
⑤給仕従業者	203	⑤横編メリヤス工	201	⑤トランジスター組立工	11
⑥パン洋生菓子製造工	202	⑥給仕従事者	200	⑥プリント配線工	10
⑦理容師	202	⑦ミシン縫製工	199	⑦パン洋生菓子製造工	10
⑧敷布工	200	⑧敷布工	199	⑧看護婦	10
⑨合成樹脂製品成形工	200	⑨幼稚園教諭	198	⑨キーバンチャー	10
⑩調理士見習	199	⑩パン洋生菓子製造工	202	⑩合成樹脂製品成形工	10
⑪娯楽接客員	199	⑪洋裁工	198		
		⑫陶磁器工	198		

資料出所 労働省「賃金構造基本統計調査」

(注) 6月分の実際の労働時間を調査したものである。

第1-23表 家計主要項目の対前年増加率

第1-23表 家計主要項目の対前年増加率(勤労者世帯)

(単位 %)

項目	昭和58年	59	60	61	62	63
(名目)						
実収入	3.2	4.6	4.9	1.8	1.7	4.5
勤め先収入	3.5	4.3	4.6	1.8	1.0	5.1
世帯主収入	3.1	4.2	4.4	1.7	0.8	5.0
妻の収入	7.4	8.6	2.8	4.8	2.4	12.8
消費支出	2.3	3.9	2.4	1.4	0.8	3.8
非消費支出	6.8	5.3	10.0	3.2	-0.2	2.7
可処分所得	2.6	4.4	4.0	1.6	2.1	4.8
黒字	3.5	6.6	9.9	2.0	6.4	8.0
平均消費性向	-0.2	-0.4	-1.2	-0.1	-1.0	-0.7
(実質)						
実収入	1.3	2.3	2.7	1.4	1.9	4.0
消費支出	0.4	1.7	0.3	1.0	1.0	3.3
可処分所得	0.7	2.2	1.9	1.2	2.3	4.3

資料出所 総務庁統計局「家計調査」

(注) 平均消費性向は対前年差である。

第1-24表 年間収入五分位階級別家計収支の対前年比

第1-24表 年間収入五分位階級別家計収支の対前年比(昭和63年、実質)

(単位 %)

項目	平均	第I・五分位	II	III	IV	V
実収入	4.0(4.5)	4.4(4.9)	3.7(4.2)	4.5(5.0)	3.6(4.1)	3.9(4.4)
消費支出	3.3	3.4	3.9	3.4	4.3	2.1
食料	1.2	1.0	1.5	3.0	0.7	0.1
住居	1.3	4.7	5.1	-4.3	-4.9	4.2
光熱・水道	2.8	2.8	5.1	2.4	5.0	-0.5
家具・家事用品	-2.6	2.2	4.6	3.0	0.2	-13.3
被服及び履物	3.0	4.0	6.8	1.5	6.1	-0.2
保健医療	6.5	-0.1	-5.6	10.0	9.6	16.5
交通通信	4.3	4.0	-3.5	-1.6	10.6	8.4
教育	3.5	2.0	5.2	11.8	6.4	-3.5
教養娯楽	7.2	8.9	11.8	5.1	7.1	5.5
その他の消費支出	4.6	4.8	5.5	5.5	4.6	3.4
可処分所得	4.3(4.8)	4.6(5.1)	4.0(4.5)	5.2(5.7)	3.9(4.4)	4.0(4.5)

資料出所 総務庁統計局「家計調査」

(注) ()内は名目である。

第1-25表 貯蓄額の世帯間変動係数の推移

第1-25表 貯蓄額の世帯間変動係数の推移 (勤労者世帯)

年	預貯金	生命保険	有価証券	貯蓄計
昭和57年	1.24	1.00	3.65	1.21
58	1.22	1.00	3.53	1.14
59	1.18	1.02	3.23	1.09
60	1.27	1.05	3.02	1.08
61	1.23	1.11	3.31	1.14
62	1.27	1.25	4.51	1.41
63	1.32	1.07	3.33	1.18

資料出所 総務庁統計局「貯蓄動向調査」特別集計

(注) 変動係数は、調査個票間の標準偏差を平均値で除して求めた。